

日時：平成 18 年 10 月 28 日（土）午前 10 時 00 分から午前 10 時 50 分まで

場所：西南学院大学 学術研究所 1 階大会議室

出席者：12 名（編集委員 10 名＋支部長＋事務局員／書記）

議長：山内（支部長）

記録：毛利（事務局）

## 1. 学会誌の発行について

支部長より、学会誌の統合（統合号の発行）をめぐる日本英文学会本部ならびに各支部の動きについて説明がなされた。本部ならびに他支部との統合号の発行については、同日に開かれる評議員会の決議に従う旨の合意を得た。さらに、評議員会でゴーサインが出た場合には本編集委員会ではすみやかに統合号発行のための体制強化を図ることが支部長から提案され、満場一致でこれを了承した。

注記：編集委員会に引き続いて開催された評議員会では「日本英文学会の改革案（骨子）を承認して今後これと同調して改革を進める」旨の決議がなされた。（これについては HP の評議員会議事録を参照されたい。）

## 2. 編集委員会のあり方について

上記 1. に関連して、編集委員会の体制強化のための具体的方策が検討された。編集委員会をより機能的なものにするために編集委員長 1 名、副委員長 2 名、参与（支部長）1 名で執行部を編成し、編集委員 15 名の総意のもとに委員会を民主的かつ効率的に運営することが支部長から提案され、満場一致で承認された。

執行部の当面の仕事として、編集委員会規定（案）の作成・提案を行う。編集委員会規定（案）の作成にあたっては、委員任期制の導入を前提とする。執行部ではこの他に査読体制の整備・強化のための提案等を行う。執行部の提案は編集委員会（15 名の委員と参与 1 名で構成）に諮り、審議の上で決議する。

### （イ）新体制

編集委員長として太田一昭委員（英文学部門）を選出した。2 名の副委員長（米文学部門、英語学部門）については遅くとも今年中には選出することが決まった。編集委員長を英文学部門に固定するか、それとも各部門の持ち回りにするかについては、後日、本編集委員会で検討することとした。なお、新体制の本格的なスタートは 2007 年 4 月からとする旨の申し合わせが行われた。

注記：2007 年 5 月発行予定（投稿論文締切は 2006 年 11 月末日）の『九州英文学研究』第 24 号については、一部前倒しの形で新執行部体制で臨みたい（これは事務局の希望です）。

### （ロ）E メールアドレス連絡網

編集委員相互間の連絡の迅速化を図るために、また適宜メールによる書面会議を行うために、E メールアドレスの連絡網を整備することが決まった。今後使用可能なメールアドレスを確認するために、各編集委員（連絡済みの委員を除く）は支部長にメールを送信することとする。

### （ハ）委員の交代

稲田俊明委員から委員の交代の申し出があり、これを承認のうえで後任に西岡宣明委員（九大）を選出した。他の委員についても留任や退任の意志の有無を確認することとなった。また、今後、新委員を選出する場合には部門（英文学、米文学、英語学）構成員の専門領域を十分に考慮し、できるだけ偏らない構成にすることが確認された。